

シグマ研究委員会諮問調整委員会 議事概要

日時： 平成3年2月15日（金） 13:30～17:00

場所： 原研本部第5会議室

出席者： 木村（京大工）、中沢（東大工）、中嶋（法政大第一教養）、大竹（データ工学）、松延（住友原子力）、水本（原研）、菊池（原研）

配布資料

1. 第3期諮問調整委員会答申案
2. 第4期諮問調整委員会への諮問事項
3. 平成2年度シグマ研究委員会本委員会資料03（諮問調整委員会の活動状況中間報告 木村氏）
4. 平成2年度～3年度の諮問調整委員会の議事録
5. 核データ活動の方向についてのコメント（中沢氏）

議事：

1. 前回議事録確認

2. 核データ評価国際協力のサブグループ会合報告

12月3～6日 NEA Data Bankで開催された上記会合について菊池氏が報告した。グループ1:Fe、Cr、Niの評価ファイル間の相互比較の結果、JEFのNaturalデータは積分値との一致が良くない。また、 (n, α) 断面積では14MeV以外での食い違いが大きい。

グループ2: ^{235}U データでの熱中性子領域の χ の値に関してエネルギー依存性が存在するとの結論になった。

グループ5:1～100keVの ^{239}Pu の核分裂断面積値に関してはWestonの測定値が正しいという方向に収斂しつつある。

3. ユーリッヒ核データ国際会議プログラム委員会会合報告

ユーリッヒで行われたプログラム委員会に出席した菊池氏から以下の通り報告があった。発表希望総数380件の内約300件が採択された。うち口頭発表80件で、そのほかはポスター。日本からの発表は50件で、うち口頭発表は10件である。

4. 答申案原案作成に関する討論

答申案に関する様々な意見が出された。主な討論内容は以下の通り。

・前期（第3期）答申案に対するシグマ委員会側の対応、実施状況に関する質問に対して、1.開放性の要求 2.国際協力の推進 3.荷電粒子反応核データ、高エネルギー核データの作成、理論計算コードの開発等について着実に実施している旨、菊池氏から回答があった。

- ・国際協力については2年前と外部の状況が変化しているとの指摘があった。
 - ・JENDL-3の利用者側のアンケート調査は実施されたが、作成側の意見を総括する必要はないかとの意見が出された。
 - ・JENDL-4として新たに全面改定したファイルを作成する必要はないというのが共通の認識である。（個々のファイルのReviseは有り得る。）
 - ・JENDL-3には格納されていない新らしい分野の核データ評価作業が今後の評価の主体となる。
 - ・資料5に基づいて、中沢氏から核データ活動の方向に関するコメントがなされた。前回の実験アンケートの印象として、今後の核データとしては(1)広義の原子力研究用核データ（高エネルギー、加速器、スポレーショントン性子源、消滅処理、核燃料サイクル）、(2)より基礎的方向（新理論、荷電粒子）が重要である。現状は3M不足（manpower、machine、money）の状況であり、核データセンターへの期待が大きい。
- 中沢氏の意見として、原子力工学は古典的な原子力研究からより広い意味での核的現象の応用技術に向かっている。その内容はシステムエンジニアリング、新材料開発、レーザー、加速器等であろう。
- ・上記意見に対して、大学の学生にとっての原子力工学の魅力、若い人への技術の継承、欧米の大学の現状と対応等に関する質問、コメントがなされた。
 - ・原子力の新たな領域の展開（SR、レーザー、医療等）にともない原子分子データの比重が高まりつつあるとの認識が述べられた。核データセンターにおけるマンパワーの比率を上げることは出来ないかとの指摘があった。
 - ・菊池氏から、1月14日にNEAで開催されたワイスマンングループ会合（原研更田、平岡氏出席）の内容紹介があった。討論の内容に関する平岡氏のメモを委員に配布する。
 - ・答申案の内容は具体的なイメージが湧くような表現にすべきである。
 - ・JENDLの最大ユーザーであるFBR、核融合に対して核データファイルの商品化、使いやすくするようなシステム化が必要である。
- ・答申案のたたき台を木村氏が次回までに準備する。その他の委員は答申案に盛り込むべき内容、コメントを木村氏に伝える。

4. 次回会合予定

平成3年4月5日（金） 1:30 pm 原研本部